

暖地における水稲乾田直播栽培に関する研究

第 2 報 播種時期の相違が水稲の生育収量に及ぼす影響

小西薫・西村昭司郎

1. 生育の促進度,伸長度は晩播(6月20日以後)が大である。
2. 生育日数の短縮は晩播になるほど大である。しかし,その程度には品種間差異がある。
3. 5月の播種は,縞葉枯病の発生が激しく6月下旬の播種は生育が劣り,いずれも収量の低下がみられた。
4. 本試験の結果では,6月上,中旬の播種が適するようである。